

平成22年 1月 1日
(2010)
第104号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170	柳沢公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825	ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855	保谷駅前公民館 東町3-14-30 TEL 421-1125

国際化する 公民館

文部科学省から、昨年公民館を紹介するパンフレットが発行されました。公民館の設立経緯、活動事例、法的位置づけなどを概観したものです。パンフレットは、国内の外国人や、諸外国に向けて、英語版も作られています。

市内に住む外国人には、公民館はどのように映っているのでしょうか。公民館で活動している外国人のみなさんに聞きました。

田無公民館には二つの日本語学習サークル（西東京友愛協会「T.I.C田無国際交流サークル田無教室」）が活動しています。日本人のボランティアスタッフが、外国人に日本語を教え、多文化交流の場にもなっています。

葛馬さんは20年以上前に、台湾から来日しました。来日2年半で帰化し、現在は日本国籍です。民族ダンスが趣味で、老人ホームなどで台湾の民族ダンスを披露することもあります。「日本語は助詞が難しい。サークルに来ると、わからなかつ

日本語検定試験を数日後にひかえ、万全を期して挑む外国人市民とボランティアスタッフ



日本発、「公民館」
英語版パンフレット

たことがわかってくる、長く学習していきたい」と希望しています。

楊さんはマレーシアから来日して10年になります。日本人と結婚して来日しました。「公民館で日本語が学べることは助かります」と言います。日本語のほかにも、料理やお菓子作り、まだ未体験のダンス、それに歌などもやってみたいと思っています。「音痴だけれど」と笑います。

ギゼフさんはリトアニア出身です。3年前に日本人と結婚して来日しました。早く日本語を上達させて仕事をしたいと考えています。母国では旅行関係の仕事をしていました。公民館のよつな施設はあつたが尋ねてみましたが、忙しくて、意識したことがなかつたそうです。仲間と集まる際には、お互いの家やカフェを利用していました。

鄭さんは韓国出身です。夫の仕事の関係で、2006年に夫婦で来日しました。各国の料理に興味があります。韓国ではトールペインティングを趣味にしています。また再開したいと思っています。これらの教室以外では日本人と接し話す機会はなく、貴重な交流の場になっています。また、韓国人の友人もできて、とても大切な場所になっています。

王さんは17歳の少年。サークルで「わからない言葉や文法を教えてくださいました。とても役に立ちます。この春、高校受験に挑みます。中国ではバスケットボールをしていました。高校でまたやってみよう」と目を輝かせます。

マリファさんは15年前にフィリピンから来日しました。2008年の5月から、柳沢公民館の障がい者青年学級「くまみ学級」のボランティアをしています。

12月6日、学級の「たんぼほクラス」がクリスマス会を開きました。マリファさんはキーキ作りの担当。他のボランティアや学級生と協力して、大きなキーキを作りました。

「学級生と一緒に活動すること、やりがいを感じています」

また、「公民館に日本語学習の場があることは、外国人にとってはとても助かる」と話します。

「西東京友愛協会」では学習時間の半ば、みんなで歌を歌うひとときを持ちました。

「しあわせなら手をたたこう」。「この歌、知ってる？」というスタッフの問いかけに

「中国にもあるよ」
「韓国にも」
日本語でみんなで歌った後、韓国出身の学習者二人が、韓国語で歌ってくれました。

西東京市公民館では21年度、社会的に制約を受けやすい人の学習支援を重点事業の中に盛り込んでいます。障がい者、外国人、子育て中の保護者、高齢者などへの支援です。

サークル訪問

写真サークル

「フット光彩ほうや」

長く活動していた保谷写真研究会が解散したのを受け、メンバーの有志を中心に、新規会員も加わって平成14年に発足したサークルです。現会員は13人。月例の互選会や、年2回の撮影会、写真展の開催が主な活動です。

昨年10月には乗鞍に出かけました。バスをチャーターして、朝5時半出発の撮影会でした。そこでの作品を持ち寄って、11月24日、柳沢公民館で互選会を行いました。

テーブルの上に60点余りの作品が、撮影者の名は伏せて並べられます。会員たちはそれらをじっくり眺めていきます。「わかんないなあ」という声。一人3点ずつ投票していき、最後に結果が発表されます。

こうして他の会員の作品を鑑賞し、自分の作品に批評をもらうことが勉強になります。

「一人じゃ自分が見えないんですよ」と言っている岡本さんです。もともとは健康のために、写真を撮るめれば毎日歩くことになると言う、と始めました。

中村さんは中学生の頃から60年に及ぶ写真歴の持ち主です。「写真もさることながら、



乗鞍にて

メカとしてのカメラが好きなんですよ」

かなり処分しても、まだ10数台のカメラを保有しています。大友さんは写真歴70年。他の会員も一目置く理論家です。「デジタルカメラの時代になって、自分で色合いを出す醍醐味があります」

水口さんも「知識が必要になりましたが、その分おもしろいですね。自分だけではわからないことも、みんなで話すと勉強になりますよ」

保谷町在住の会員が多く、柳盛会商店会のメンバーも何人かいます。柳盛会のお祭りでも、撮影公認証をつけて協力します。また、柳沢公民館のロビーコンサートや音楽サークルの発表会でもカメラマンを買って出ます。会長の荒井さんは「写真を撮る生きがいに、ガッツ」と語ります。

連絡先 荒井 461・0721
会のホームページもあります。